

NO. 273 〔朝三暮四〕 ちょうさん ぼし

< 意味 > 目先の違いにとらわれて、結局は同じ結果であることを理解しないこと。また、言葉巧みに人を欺くこと。転じて、変わりやすく一定しないことや生計の意味でも使われる。「暮四朝三」ともいう。

< 出典 > 『列子』^{れっし} 黄帝^{こうてい}

< 故事 > 中国宋の狙公^{そこう}が猿を飼っていたが、その猿たちにとちの実を朝三つ晩四つ与えると言ったら猿たちは怒ったが、朝四つ晩三つにすると言ったら喜んだという故事から。

表 言 : 朝三暮四を見抜けない

用 例 : 幕府の頼勢を建て直さなければならないが、これも、堀田の意中は、朝三暮四、いつ豹変するかしれたものではない。<舟橋聖一・花の生涯>

一 言 : 岸田首相は経済対策の目玉として所得減税を推し進めようとしています。しかしながら、一方で岸田首相は以前から防衛増税の必要性も表明しています。TBSの「サンデーモーニング」で、あるコメンテーターが岸田首相のそうした政策について、朝三暮四という言葉を出した、と厳しく批判していました。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」